

第85回全道メーデー大会 200団体5千名結集

― 貧困と格差を無くし、「働くことを軸とする安心社会」の実現を ―



労働者の祭典を祝うかのように札幌大通公園の桜が咲く中、今年も5月1日、第85回全道メーデーが開催された。

札幌の会場には200団体5000人が参加し、全道では138地域でメーデーが開催され、6万人が参加した。



今回も、式典が始まる前に各種イベントが行われ、ダンスパフォーマンスや恒例のお楽しみ抽選会に参加者は盛り上がっていた。

お楽しみ抽選会の目玉賞品である「ゆとり切符」は、一昨年の東日本大震災以降、復興・再生協力の意味を込めたものとし、今年は岩手県「花巻温泉」への招待券が用意され、運輸労連の組合員とJP労組退職者の会の方が見事当選されました。

前段のイベントは、当選者の喜びの声で終了し、舞台はメーデーの式典へと移った。

はじめに、挨拶に立った工藤和男大会長（連合北海道会長）は、「2014春季生活闘争は今後、未解決の地場・中小組合への波及効果を生み出す取り組みに総力を挙げる」と、今後の春期生活闘争での決意を述べた。更に、政府が推し進めようとしている労働者保護ルール改悪問題については、「痛んでいる日本の雇用社会の危機を放置し、働かせる側の論理に大きく傾斜した考え」とであると断じ、当面する政治課題については、来年の統一自治体選挙を「今後の国政選挙の前哨戦」と位置づけ、全力で取り組むとした。

また、来賓として挨拶に立った上田札幌市長、横路民主党北海道代表からも、「このメーデーをきっかけに、私たちが築いてきた平和な国家を堅持していくための闘いに意志を固めていかねばならない」、「今の大きな政治の流れに抵抗し、対抗する力を北海道から作り上げていくメーデーにしましょう」と、参加者に連帯を呼びかけた。

その後、メーデー宣言と特別決議2本（労働者保護ルールの改悪に断固反対・特定秘密保護法の廃止に向けた取り組みを強化）を採択して式典は終了し、引き続き3グループに分かれて札幌市内のパレード行進を行い、小雨降る中、大きな声で札幌中心部にシュプレヒコールを響かせ、市民にアピールをした。

